

1 目 標 学習指導の工夫と学習習慣の定着を通した、確かな学力の向上をめざして
(小中学校9年間の一貫性と連続性を生かして)

2 実践目標

- (1) 佐賀県学習状況調査や唐津市基礎学力テストの結果の分析と課題把握に努め、極小規模校のメリットを生かし、児童個々の理解の度合いを的確に把握し、学習内容の確実な習熟を図る。
- (2) 学習指導の工夫として、ペア学習などの「学び合い」の場面設定やスキルについて、小中学校9年間を通して指導する。
- (3) 学習習慣の定着をめざして、「馬渡っ子スタイル」を徹底させるとともに、各学年の発達段階に応じた目標を設定する。
- (4) 学校や児童・生徒の学習や生活のようすを、学校便りや学級通信、ホームページ等を通して、保護者・地域に周知し、保護者・地域とともに児童・生徒を育もうとする気風の醸成を図る。

3 成果目標

- (1) 中1ギャップの解消や中学校へのスムーズな移行を目的とし、小学校6年生段階で中学校教員が国語・算数・理科・社会の授業にはいる、「一部教科担任制」を導入する。
- (2) 佐賀県学習状況調査の結果を速やかに分析・把握し、学級や児童個々の実態を把握し、授業改善を図る。

また、児童個々の学習内容の定着の度合いを的確に把握し、習熟が遅れがちな児童にはドリル練習などを通して、学習内容の習熟を促す。さらに、確実な理解が見られる児童に対しては、発展的な学習課題を与え、さらなる習熟をめざす。

- (3) 昨年度より校内研究として取り組んでいる「学び合い」の活動から、「自主的な学び合いからお互いを認め合う場面が見られる。」「小中学校の教師が同じ歩調で取り組む姿勢が見られるようになった。」などの成果が見られた。

今年度は、さらに研究を深め、児童・生徒の「わかる喜び」・「教えあう楽しさ」を高めることで、学習意欲の向上をめざす。また、小中学校9年間の一貫した授業スタイルとすることで、小学校から中学校へのスムーズな移行を図りたい。

- (4) 「しっかり『話す』ために、きちんと『聞く(聴く)』ことが重要であること」を、児童・生徒に理解させ、授業やその他の場面で、自分の思いをきちんと伝えることのできる「表現力」の向上を図っていききたい。

また、「時計を見ながら行動する。」「学用品などの忘れ物をしない。」「授業中と休み時間のメリハリをきちんとつける。」などの『授業規律』を小学校段階から徹底させ、中学校段階での意識向上を進めていく。

- (5) 昨年度より「開かれた学校」をいっそう推進してきたが、保護者の相談や地域からの情報提供が増えるなど、保護者・地域との連携がより密になってきたことを肌で感じられてきている。

今年度は保護者・地域との連携をさらに深め、家庭学習の内容の充実や生活指導の徹底が図られるように進めたい。

4 現 状

昨年度実施された唐津地区基礎学力テスト3回すべてにおいて、80点以上の合格に到達した児童が全校で90%以上であり、特に3回目では国語・算数ともに19人中18名が合格できていた。このことからドリル学習などによる、基礎的な内容の定着は十分にできていると考えられる。

また、22年1月実施のCRTの結果からは、一部の学年を除き概ね期待正答率を上回る結果となった。しかし一方で「内容を読み取る力」や「目的や意図が伝わるように書いたり説明したりする力」などが十分でないこともわかった。そのため校内研究において、お互いの考えを伝え合う「ペア学習などの学び合い」をさまざまな教科・領域の枠を超えて取り入れていこうと研究を進めている。

5 数値目標

- (1) 佐賀県学習状況調査（5年生・6年生）においては、各項目の平均正答率を、全国平均・佐賀県平均に対し - 5ポイント以内とする。
- (2) 唐津市基礎学力テストにおいて、80点以上の到達の100%達成を目指す。
- (3) 学校評価の各項目において、学校関係者評価（アンケート）の「達成」「おおむね達成」の肯定的評価の80%以上を目標とする。

6 具体的な取組

アクション 「基本的な生活態度の育成」

- (1) 年間重点目標「あいさつを元気にする」
朝の登校指導でのあいさつや、授業の始まり・終わりのあいさつなどを徹底する。
地域の方や来校者に対する、快活なあいさつを徹底する。
- (2) 基本的な生活習慣の徹底
生徒指導を本校の「教育課題」ととらえ、全職員で課題意識を共有する。
頭髪や服装など、基本的な身だしなみについて、時期を逃さず指導する。

アクション 「学習意欲の向上と学習習慣の定着を目指す」

- (1) ペア学習などの「学び合い」活動の導入
自己肯定感を高めるため、「ペア学習」など「学び合い」の場面設定やスキルの育成を、全学年・全教科で行う。
授業改善の視点から、小中が連携した「学び合い」を取り入れた授業研究を行い、効果的な指導法について検証を行う。
- (2) 「聞く」「話す」力の育成を通じた「表現力」の向上
「聞く力」「話す力」の育成が重要であるとの認識から、小中が連携した「発表のルール」を全学級で指導・徹底させる。
授業だけでなく、行事や集会活動などでの「感想交流」や「意見発表」などに、積極的に取り組ませる。
- (3) 「ノーチャイム」「学習用具」「姿勢と返事」など、小中一貫した指導の基本となる「馬渡っ子スタイル」を設定し、全職員で共通した取組を行う。

馬渡っ子スタイル～ノーチャイム～

はじめ
学習時刻がきたら、席について勉強を始めます。

あいさつ
「起立」「気をつけ」「礼」「着席」
※礼をする前にお願ひします。」「ありがとうございました。」

おわり
次の学習の準備をしてから休み時間を過ごします。

学力向上

- ・学習習慣の定着
- ・家庭学習の質の向上
- ・授業規律の確立

馬渡っ子スタイル～学習用具・小学校編

その①
机の上は整理して置きます。
用ふでばこをもって
とがったえんぴつを5本
赤鉛筆か、赤ボールペン
白い消しゴム
12～20cm定規
勉強にいらぬものは、持ってきません。

その②
用しはみ、定規、消しゴム
教科書 ノート

その③
ノートに書くときは、必ず**したじき**を使います。

アクション 「保護者・地域に信頼される学校づくり」

- (1) 保護者・地域との連携
保護者・地域との連携・協力がより強固なものとなるよう、校長をはじめとして全職員が「連携しよう」「絆を深めよう」という意識を共有する。
「相談」や「情報提供」を気軽にできる雰囲気作りを行い、家庭学習の定着等に向けて保護者の協力体制づくりを進める。
- (2) 学校便り・学級通信・ホームページの充実
「学校便り」や「生徒指導部便り」、「教育相談便り」そして各学級の「学級通信」などを通して、学校や学級の様子を保護者・地域に分かりやすく伝える。
見やすく分かりやすい学校ホームページの構築・更新作業を通して、学校の姿をリアルタイムに発信し、島内外にアピールする。

アクション 「各種テストの分析と指導法の工夫」

- (1) 「分析ツール」等を活用した結果分析
10月に実施される全国学力・学習状況調査や佐賀県学習状況調査の結果を分析し、児童の実態把握と課題解決のための方法を探る。
学習指導に関し、教師集団が共通した課題認識をもつことを通して、指導の工夫・改善を図る。
- (2) 唐津市基礎学力テストへの取組
唐津市基礎学力テストを、基礎・基本の定着度合いをはかる機会ととらえ、「できる喜び」を味わわせるとともに、ドリル学習などにより、基礎的・基本的な学習内容の定着をさらに進めたい。
- (3) 「サマースクール」の活用
従来より各学級ごとに「サマースクール」を行っているが、時間的・内容的にさらに拡充し、学習内容の定着に役立つような取組内容を再検討する。また、夏季休業中の全校登校日を2回設定し、課題の進捗状況の把握に努める。